

腐敗剖検試料におけるエタノール死後産生の評価に 有用な揮発性成分の定量解析

1. 研究の対象

2019 年以降に琉球大学大学院医学研究科法医学講座にて解剖をうけた方。

2. 研究目的・方法

法医解剖試料に含まれるエタノール（酒）の濃度は死因を鑑定する上で極めて重要な情報で、死後時間が経過して発見されたご遺体においても同様です。しかし腐敗しているご遺体では死後、細菌等によるエタノールの産生を考慮せねばならず、腐敗の指標には、共に検出される n-プロパノールがよく用いられていますが、必ずしも全てのご遺体で検出されるものではありません。本研究では試料中の腐敗で産生される成分を網羅的に定量、統計学的解析し、結果をまとめることでエタノール濃度の評価を助け、ひいては法医学における死因の判断に役立てることを目的とします。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：血液、尿、胃内容物、硝子体、大腿筋肉 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するお問い合わせ、また、協力を望まれない場合は、以下の問い合わせ先にお申し出下さいますようお願いいたします。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

機 関 名：琉球大学大学院医学研究科法医学講座

住 所：沖縄県西原町字上原 207 番地

電話番号：098-895-1141 メール：nikemats@med.u-ryukyu.ac.jp

研究責任者：池松夏紀

-----以上